# ヒエログリフ

●紀元前3100～550年ごろ
▲紀元前3100～550年ごろ
■古代エジプト

ルクソールのカルナック神殿に刻まれたヒエログリフ。

## エジプトで生まれた絵のような文字

ヒエログリフがいつごろから使われはじめたのかは、はっきりしていません。紀元前3100年に王の名を刻んだものが発見されており、このころには確実に使われていたようです。古代エジプトは次々と新しい王を迎えながら3000年もの長い間統一国家であり続け、ヒエログリフは国が滅んだ後までふくめると、3500年以上も使われ続けた文字となりました。絵のような文字が美しいバランスで並べられ、文字というよりデザインされた絵画のような印象です。ヒエログリフは周囲の国へも伝わり、その後生まれるさまざまな文字へ影響を与えました。

## 石に刻まれ、パピルスに書かれた文字

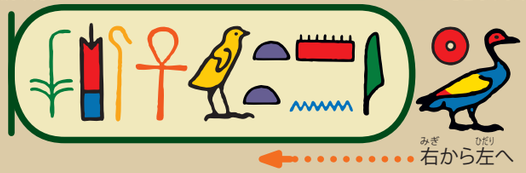
初めのころのヒエログリフは、王や貴族の功績や神の言葉を記すために、石碑などに刻まれていました。下書きに合わせてていねいに彫られ、あざやかな色をつけたものも多くありました。カヤツリグサの一種からパピルスとよばれる紙を作る技術が発達すると、墨と筆でも書くようになり、役所の記録など多くの文書に書かれるようになりました。文字を扱うのは役人や神官などごく一部の人間でしたが、ピラミッドの中に労働者が残した落書きも多く見つかっていて、幅広い層に文字の知識が広がっていた可能性があります。

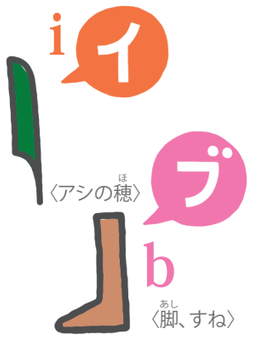
## どこから読むの？

ヒエログリフは、たてにも横にも書きます。横書きの場合は、左から書いても右から書いてもいいのです。文字の中の人や動物の向きが、読む方向を示しています。右に向いている場合は右から読み、左を向いている場合は左から読みます。全体がきれいにおさまることが大切なので、小さな文字はつめて書いても良く、つづり方がとても自由なのがヒエログリフの特徴です。

### 古代エジプト王「ツタンカーメン」のヒエログリフ

「アメン」は神の名前なので一番先に書かれていますが、
読み方は「サァ・ラー　トゥントアンク　アメン　ヘカァ・イウヌウ・シェマァ」となります。





## 音だけを表す文字が多い

絵のように見えるヒエログリフは、1文字1文字がすべて意味を表しているように思えますが、そうではありません。多くの文字は音だけを表すアルファベットとして使われています。絵の通りの意味を持つ文字もありますが、それほど多くありません。一つの文字が、あるときは1文字で意味を表し、あるときは音だけを表すこともあります。このような文字が文の中に混ざっていっしょに使われていて、それを文の流れの中で判断して読み進めることになります。

## すばやく書ける書体の誕生

写真のヒエログリフは石に刀で刻まれたもので、聖刻書体ともいいます。このほかに、パピルスにペンで書かれた文字にヒエラティック（神官書体）があります。役所の文書や文学を書くために広く使われた書体で、よりなめらかに速く書けるようにヒエログリフをくずした形になっています。時代が進むとヒエラティックをさらにくずして速く書けるようにした、デモティック（民衆書体）が使われるようになりました。デモティックはパピルスや陶片などに書かれ、政治経済や日常のものごとについて書かれたものが多く見つかっています。

CS5.5
すかん文字
2R9=16
4
DIP2-22XV
雅田
1
仕上サイズ
天地257
左右182
左あき
X131115(IM-15)